

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300027		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター稲毛		
所在地	千葉県千葉市稲毛区稲毛町5丁目230-1		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	平成30年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの理念に沿い、お客様主体・尊厳を傷つけない・身体拘束は行わないことを重んじて、サービスを提供しています。 ・お一人お一人の自立心を支え、明るい笑顔が溢れるホーム作りを目指しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度で15年目を迎えた3ユニットのグループホームである。ホーム長は開設以来から、「我が家と思って安心して過ごして頂くこと」を第一として、ユニット毎の管理者と職員の自主性を尊重した支援に取り組んでいる。各ユニット管理者はお互いに他のユニットを意識ながらも、創意工夫して明るい雰囲気運営している。開設時からの方も多し。90歳以上が数名、毎年100歳を迎える方がいるなど高齢化と重度化も進み、今年度は3名の方の看取りがあり、利用者の入れ替わりも徐々に進んでいる。ホーム主催の秋まつりは毎年100名以上の住民が参加し、利用者との交流を深めるなど、地域にしっかりと定着したホームとなっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念: 1290300027					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎日朝礼でホームの運営方針「ほほえみの誓い」を唱和し、その理念に基づきケアを行っている。	法人理念と同時にホームの理念「ほほえみの誓い」を玄関に掲示している。朝礼時に参加者全員で理念を唱和するとともに、その思いを日々の支援に活かせるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年「秋祭り(一昨年までは夏祭り)」等の行事を行い、地域住民との交流を図っている。又、散歩の際には挨拶をして、地域の一員として交流している。	町内会に加入し、散歩時に近隣の方と交流もあり、花や野菜を頂く事もある。ホーム長は住民からの介護相談に応じ、感謝されている。特にホームの秋祭りは、毎年100人以上の住民も参加し、職員・利用者と交流するなど、町内における大きなイベントとして定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の介護相談をうける。初任者研修実習生の受け入れ指導を行っている。近隣中学校の福祉ボランティア実習の受け入れ、子供110番の受け入れを実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームと近隣、行政との連携が図れるよう動めている。	町内会長、民生委員、市介護相談員、オーナー、家族、利用者の参加を得て年4回開催している。「地域と共に歩むホームを目指して」を目標に、近況報告・研修内容・ユニット毎の利用者の過ごし方・防災訓練などについて報告し、意見を頂き、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に定期的に訪問している。グループホーム連絡会を通し介護施設との交流を図り情報を共有している。	ホーム長は、必要な都度、市の窓口を訪問している。特に、懸案事項や、事故報告は時間をかけて説明し、対応方法について相談して。その他、安心ケアセンターでの研修会、グループホーム連絡協議会等へ参加して交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束について勉強している。ホーム会議等で勉強内容の共有のために勉強会を行い、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束をしないケアに取り組み、本人・家族へは重要事項説明書等で説明している。外部研修への参加以外に内部研修(千葉支店、ホームでの研修)を実施し周知徹底している。玄関は昼間は施錠はせず、見守りに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで決してあってはいけない事ということを周知徹底し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議等で勉強会を行い学ぶ。成年後見制度を活用している入居者が複数いて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内覧時に説明すると共に契約、改定時には個人情報の取り扱いや入居者の尊厳、提供するサービス内容等を読み合わせ理解を頂いた上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見交換を行っている。又、苦情等相談窓口を示す掲示をしている。	家族来訪時や、ユニット別・全体家族会で意見・要望を聞き、緊急時や参加されない家族は電話で確認している。ホーム長は毎月全家族に「ほほえみだより」を作成、各管理者がお知らせを作成送付する。満足度調査アンケートを本部は実施し、要望を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議等で意見や提案を出せる機会を作っている。	ホーム長、管理者は日頃より職員と話し合うほか、毎月2回のホーム会議や各ユニット会議、カンファレンス時などに要望や提案を聞き、運営に活かしている。年1回、ホーム長・管理者が個人面談を行い、職員と話す機会があり、その際にも意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤、退勤時にはできる限り声掛けをし、話を聞くように心掛けている。常に問題意識がもてるよう働きかける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップの機会をつくり自己啓発を促すと共に研修の参加も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し情報の共有やスキルアップなどに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接時にゆとり時間をとり、なじみの関係を築けるよう努め、入居時には面接に伺ったスタッフが迎え安心できる環境を整えるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や困っている事等をよく聞き、気軽に相談できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の希望を確認した上で支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ得意な事を活かし教えたり習ったりしながらスタッフと一緒にいることで役割意識や生きがいにつながる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの暮らしの要望等お聞きするようにしている。面会や行事への参加を通し一緒に過ごし、支えあえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会も可能な限りきてもらい今迄の生活を継続できるように支援に努めている。	馴染みの人や場所との関係が切れない様に支援し、入所し長期間経過しても、大学の同期生や職場の元同僚、お世話になっていたケアマネージャー等の訪問がある。職員との語らいや、ソファや部屋での利用者同士の団欒で馴染みの関係になった方も増えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさを阻害しないようにしつつ、入居者同士の関係が良好に保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事やボランティアとして来ていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活歴を職員で共有し、本人主体の生活を送れるようにコミュニケーションを図りながら信頼関係を築く。	自己主張できる方は、話し合いの中で伺い、言葉を失った人は、アイコンタクトや仕草で意向を読み取るなどでコミュニケーションを重ね、信頼関係を築いている。『スタッフの取らえ方ひとつで介護しやすくも、難しくなる場合もある』とホーム長は対応について管理者・職員を指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、ご家族様の協力を得ながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、職員・医師・看護師と情報交換し、その人の生活リズムと現有能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、本人や家族の要望を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	利用者の状況変化に応じて、カンファレンスを行い、本人、家族、関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。リーダー会議では日常の小さな変化も見逃さず、計画の見直しを行っている。交代勤務で、会議に参加できない職員は連絡帳で課題を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別にケース記録をつけている。他にバイタル・排泄記録・食事水分摂取量・入浴等についても記録をとっている。特に気になる点等は、連絡ノートを活用し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしさを生かした柔軟な支援を行い、ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設を訪問の際はパンフレットを持参している。消防署や警察にも連絡をとり、ホームの存在を認識してもらっている。更に消防訓練や救急講習も受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師の往診を月2回受けている。緊急時等に電話で医師の指示を仰ぐ事ができる。	利用開始時にかかりつけ医をホームの提携医か、今までのかかりつけ医にするか選んでもらっている。提携医は月2回の往診で、緊急時にはすぐに病院を紹介してもらっている。訪問歯科の来診も有る。今までのかかりつけ医や提携医、協力病院以外の受診は家族の支援を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師がホームを訪問し、医療行為に当たる特殊な方の爪きり、耳掃除等を行い、健康チェックに関しては提携医療機関と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族とも話し合いを行い急性期以外は早期退院できるように医師と相談連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の健康状態を把握し、心身の状態に異変が見られた時は医療機関や家族とその都度連絡を取り話し合い、方針を共有している。	ホームの看取り時の方針「重度化しても最期まで同じ環境の中でいつもと同じように過ごして頂きたい」という思いのもと医師、看護師、スタッフが共通認識を持ち、家族の協力を得て支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる救命講習を受講したり、緊急対応についてはホーム内で勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。災害時の対処マニュアルを作成し、全職員が対処できる体制を整えている。	火災発生時間帯を夜間・昼間に想定して避難訓練を年間4回実施している。災害時の地域の住民の支援もお願いしている。火災と地震では避難先を変えるなど、きめ細かいマニュアルも作成している。災害対策用備品等はホーム内に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取扱いに充分注意している。 尊厳を傷つけぬように注意し声掛けを行っている。	個室の掃除は声をかけてから行っている。トイレの誘導は耳元で他の人に聞こえない様にし、入浴は周りから見えないように配慮している。一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない様に言葉かけや対応に努め、名前は苗字にさんをつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けを心がけ、散歩への参加や水分補給時の飲み物の選択など、選ぶ場面を出来るだけ作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守りケアしている。起きる時間・食事の時間も主のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用している。 本人の希望により行きつけの美容室へ行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、盛り付け、食器拭き等、可能な事は出来る限り入居者に参加していたり、職員と一緒に食事を摂っている。	利用者と相談しながら献立を決めている。3ユニット別々の献立と調理で楽しく競い合っている。下ごしらえや味見、食器やお盆拭きなど、利用者が多くかかわれるように工夫している。毎週火曜日に移動パン屋が来訪してくれるため、利用者が買い物を楽しめる。ホームでのパンバイキングは好きなものを選べると利用者にとって好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な水分量を職員が把握し、積極的な水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後歯磨きの声掛けや口腔ケアを入居者の状態に応じて対応している。希望により訪問歯科の往診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するよう努めている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけにも配慮しトイレ誘導している。言葉の言えない方は目力や態度で知らせてくれる。トイレでの排泄の自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促す作用があると言われる飲食物を提供したり、散歩やラジオ体操等で体を動かす工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴希望を聞いている。排泄、失禁など入浴を必要としている場合は随時入浴またはシャワー浴を行っている。	週最低2回は入浴をしている。毎日入浴する方もいる。入浴を拒否される場合には散歩してから入浴をすすめたり、スタッフが一緒に付き添うことを伝え、安心して入浴ができるように声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ昼寝をしていただいたり、夜間眠れない時は飲み物を勧めたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は職員が共有している。又、服薬ミスを防ぐ為に、複数の職員が確認する体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を援助しながら、生きがいや役割意識を持てるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩で外出の機会をもっている。また、バス旅行・外食等でも外出している。	市の福祉バスがなかなか借りられず、全体での大きな外出行事は困難になっている。その中で、車いすの方も含め、全員が毎日散歩できるように、住宅地コース、緑の多い病院コースなどで、体力維持と季節感を感じて頂いてる。ユニット毎に時には回転ずし・動物園等、全体で初詣・花見に出掛け、家族来訪時に一緒に外出する方も多い。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は個人では持っていないが、主の希望で少額所持している場合もある。買いたい物がある時はお小遣いを使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、季節感を感じられる物を飾る等工夫している。	作品は職員・利用者が一緒に制作し・飾ることに意義があるとし、3ユニットそれぞれが生活感や季節感を取り入れた装飾がなされている。個人情報との関係で写真の掲示の代わりにアルバムで対応している。	家族アンケートの一部コメントに、ホーム内の清潔・清掃についての指摘もある。ホームの今年度の整備計画に併せて、ご検討頂きたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた場所を把握したり、皆で楽しく過ごせる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置いてもらっている。	利用者の長年の生活環境に添って、布団を敷く方、ベッドを使用される方もいる。クローゼットが壁にピタリと収納され部屋が広く見える。使い慣れたものや好みのものを持ち込み、それぞれ居心地よく過ごせるように工夫し、レイアウトされている。居室の掃除は職員と一緒にあれば、家族が実施する場合もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り等を活用し、なるべく安全に自力で生活できるよう支援している。		